



公益財団法人

長野県健康づくり事業団 様

ソリューション : PAXiS-Screening

大量の読影業務を PAXiS-Screening でシステム化。オフラインレポートを導入し、オンライン、オフライン問わないスピーディな読影環境を実現。



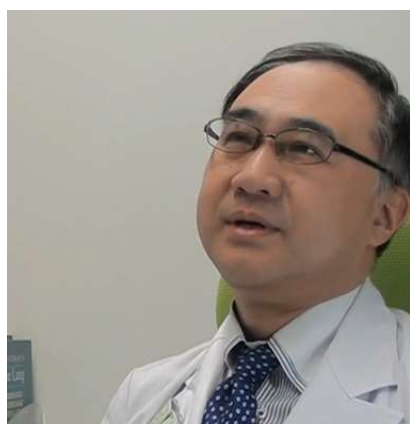
公益財団法人長野県健康づくり事業団
<https://www.kenkou-nagano.or.jp/index.php>

業務内容：人間ドック、巡回健診（検診）施設健診、健康推進事業、普及啓発事業

住所：長野県長野市
 設立：2000年4月1日
 代表者：理事長 関 隆教
 関連施設：長野健康センター
 伊那健康センター

平成12年4月に財団法人結核予防会長野県支部と財団法人長野県成人病予防協会が統合し、財団法人長野県健康づくり事業団が発足。長野県において健（検）診事業、健康管理・健康づくり事業を推進し、年間受診者数は年間約600,000人以上。平成25年4月に公益法人に移行し、従来の健（検）診事業はもとより、受診者の健康を守るため、健康づくりに関する情報提供、普及啓発活動などにも積極的に取り組んでいます。医用画像管理システムを発足時からいち早く導入し、今回更なる柔軟な発想で PAXiS-Screening オフラインレポート機能を導入しました。担当者の皆様に導入の経緯や導入後の効果についてお話をお聞きしました。

■「オフラインレポート」導入までの経緯を教えてください



(公財) 長野県健康づくり事業団
 肺がん CT 検診検討委員会委員長
 JA 長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター
 放射線科部長

丸山雄一郎 先生

肺がん検診では、直接写真や間接写真を読影していますが、最近では、X線フィルムからデジタル写真が主流になってきました。

長野県でも、間接撮影装置が搭載された検診車が老朽化してきて、間接撮影装置自体の更新もできなくなってきたため、デジタル化が必要になってきました。肺がん検診の読影は、県内の

医師会の先生方を中心に県内各地で行われています。読影する場所は、郡市医師会の医師会館であったり、それぞれの病院や診療所など様々です。

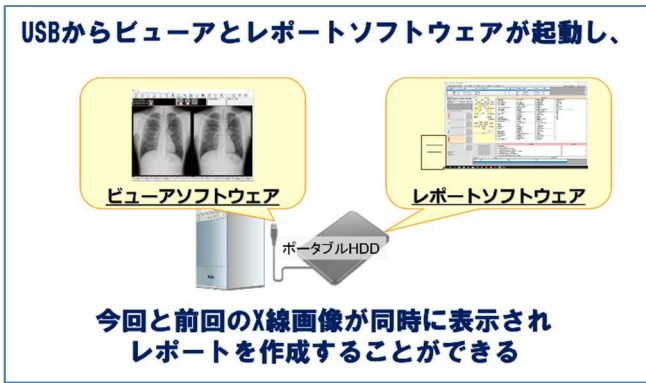
そこで、従来の間接ロールフィルムを読影するのと同じように読影場所や読影速度が変わることなく、さらに、フィルムでは難しかった比較読影ができて、誰でも簡単に操作できる読影システムが必要と考え、今回開発していただきました。

■ PAXiS-Screening の一番の特徴を教えてください

今回開発していただいた、PAXiS-Screening は画像サーバーとネットワークが繋がってなくても、読影とレポート入力ができることが特徴です。

USB メディアの中に、画像ビューアとレポートシステムが入っており、USB から、これらのシステムが起動して、今回と前回の X 線写真が同時に表示され、レポートを作成するこ

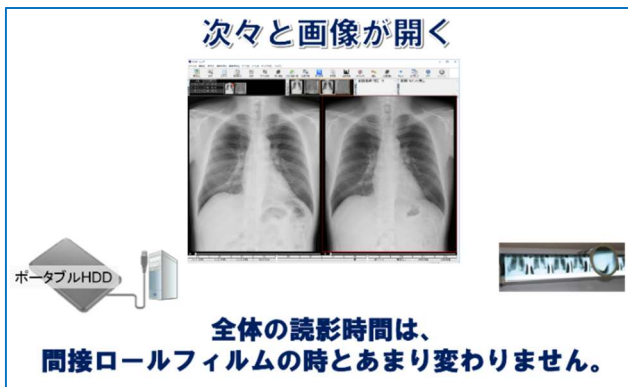
とができます。



■ 導入による効果はありましたか？

ネットワークを利用しないので、画像表示やレポート登録の速度が速く、次の受診者の画像を開くまでの時間が短いのがいいですね。全体の読影時間は、間接ロールフィルムを読影しているのとあまり変わりません。

モニタ診断に変えると、「読影時間が延びて大変だ」という意見を聞くことがありますが、この PAXiS-Screening は、読影時間延長によるストレスを感じさせません。



■ 読影の高速化のポイントとなる機能をお聞かせください

ビューアの機能はより効率的に読影を進めるために、X線写真が表示される高精細モニタ内に、喫煙歴や前回の所見、判定などの情報が表示されるようになっているためいちいちレポート画面に視線を動かさなくても、読影に必要な情報を得ることができます。

レポートの機能は異常所見がなく、肺がん検診の B 判定の場合は、レポート入力画面を開くことなく、キー入力ひとつで異常なしの判定入力終了して、次の画像に移動するので、視線や手の移動が少なく、スムーズに読影を進めることができます。

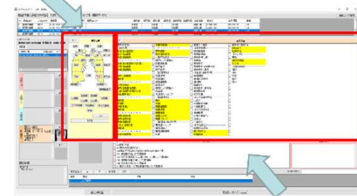
レポートを起動しなくても
情報が確認できる



1クリックで所見「異常なし」登録

異常所見があった場合は、画像貼り付けをすると、自動的にレポート入力画面が開きます。部位を選ぶと、紐付けされた所見名が色づけされて強調されるため、その部位に関連した所見を容易に見つけることができます。この機能により、頻繁に使用しない先生方でも、所見を選択しやすくなっ

部位をクリックすると



関連した所見が
自動的にピックアップ

ています。

■ 今後の課題・抱負をお聞かせください

PAXiS-Screening を使うことで、一日に大量の検診画像を読影する必要がある検診機関の読影担当の先生方には、読影業務の効率化や時間短縮が図れると思います。

また、地域において、時々肺がん検診等の読影業務に携わる開業医の先生方でも、入力操作が簡単で、直感的にわかりやすいシステムですので、フィルムを読影し、所見を用紙に記入する現在の方法から、モニタで読影し、パソコンに入力する方法に、スムーズに移行していただけるものと思います。

—長野県健康づくり事業団ご担当者の皆さん、貴重なご意見・ご感想ありがとうございました。